

第3 問題作成部会の見解

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 地理に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。地理的な見方や考え方を働かせて、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力を求める。『地理総合、地理探究』では、「地理総合」で学習したことで、それを基に「地理探究」で学習したことを問う。

問題の作成に当たっては、地域を様々なスケールから捉える問題や、地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり、資料を基に検証したりする問題、系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問 学習指導要領「地理総合」の「B 国際理解と国際協力」における「(2) 地球的課題と国際協力」に関する大問である。世界の食料生産と消費を中核としつつ、それに関連する自然環境や生活文化などについても取り上げ、更に地球的課題の要因の地理的差異についても問うことで、地球的課題を大観できるようテーマ型の問題とした。問1では、食料問題が人間の健康や生存に影響を与える重要な地球的課題であることを考察する力を問い、問2では、食料生産の根幹となる農業の地域の特徴と自然環境の関係を問い、問3では、食習慣の地域差を自然環境のみならず歴史的・文化的背景との関わりから推察する力を問い、問4では、多様な視点から食料問題の要因と解決策を検討する力を問うた。問3の正答率がやや低かったが、大問全体では適切な正答率であった。また、本大問は『地理総合、地理探究』との共通問題であり、「地理総合」では正答率がやや低かった。

第2問 学習指導要領「地理総合」の「C 持続可能な地域づくりと私たち」における「(2) 生活圏の調査と地域の展望」に関する大問である。愛知県東三河地域を対象地域とし、大問全体のテーマである「立地の優位性や他地域とのつながりが、東三河地域の発展に寄与しているのではないか？」を各小問に共通する仮説として設定し、探究学習の場面を想定した。問1は、新旧地形図からみる豊橋市中心部の地域の変容、問2は、豊橋市周辺の工業集積の立地特性、問3は、東三河地域における農業を取り巻く環境変化と自然環境、問4は、交通による東三河地域と他地域との結び付きについて、地図や統計資料などに基づいて地域を様々なスケールで多面的・多角的に考察することをねらいとした。問3の正答率がやや低かったが、大問全体では適切な正答率であった。また、本大問は『地理総合、地理探究』との共通問題であり、第1問と同様に「地理総合」では正答率がやや低かった。

第3問 学習指導要領「地理総合」の「C 持続可能な地域づくりと私たち」における「(1) 自然環境と防災」に関する大問である。「日本の自然環境にはどのような特徴があり、それが人間生活にどのように関わっているか」を中核的な発問とし、前半において、変動帯に位置し、南北に細長い日本列島では、変化に富んだ地形や気候環境がみられることについて問うた。後半においては、自然環境の特徴を踏まえた上で、災害の発生要因や災害へのハード対策・ソフト対策、その場で展開されている人間活動を考察させる構成とした。地形図や主題図、グラフ、写真の読図といった「地理総合」の学習を通して身に付けるべき基礎的技能を活用し、自然環境の特徴や、自然と社会（人間活動）との関わり、自然災害への備えや対応を多面的・多角的に考察することを目指した。大問全体の平均点はやや高かった。小問の正答率は、問1と問2

はおおむね標準的であったが、問3と問4は高かった。

第4問 学習指導要領「地理総合」の「B 国際理解と国際協力」における「(1) 生活文化の多様性と国際理解」に関する大問である。「文化及びそれに関連する産業から生活文化の多様性や混淆、変容を捉える」を大問全体のテーマとした。問1は、自然環境が住居形態にどのような影響を与えるかを推察する思考力を、問2は、人の移動と地域間交流により生み出される生活文化を推察する思考力を、問3は、文化を変化させる要因としてのコンテンツのグローバルな流通やその地域差を推察する思考力を、問4は、情報通信技術の普及にみられる地域差を推察する思考力を問うた。大問全体の平均点はやや低かった。小問の正答率は、問1と問3はおおむね標準的であったが、問2と問4はやや低かった。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見についての見解

第1問 大問全体では適切な正答率であったが、『地理総合、地理探究』と比較して「地理総合」での正答率がやや低かった。また外部団体からは、総体的にみて、基本的知識やそれを基にした地理的思考力を問う標準的な難易度の設問で構成されており、資料や文章量ともに適切であるとの評価を得た。また、出題形式に対しては、探究的なプロセスを想定した構成ではなく、どの問も複雑な資料を読み解く形式ではないため、受験者にとって比較的取り組みやすかったとの評価を得た。問1は、比較的易しい問題であるが、地球的課題や生活文化の多様性を探る上で基本となる指標を確認させる良問であると評価された。問2は、地域の特徴について、気候や農業を切り口として解答する適切な問題であると評価された。問3は、日本とその他の4か国の傾向の違いがあらわれており、よく考えられた問題であるとの評価を得た。問4は、公民的になりがちな食品ロスというテーマを、生産から消費までの地域間差異で考察させた良問であるとの評価を得た。その一方で、問2は、「地理探究」の学習内容を含んでおり、「地理総合」の出題として適切かどうか議論の余地があるとの指摘を受けた。また、問4は、食品ロスの発生要因を考察させる作問がなされていない点、地球的課題としてグローバルな視角に乏しい点に改善の余地があるとの指摘を受けた。問2は、「地理総合」の学習内容を基に解答できる出題と考えているが、今後は、これらの指摘を真摯に受け止め、より適切な問題作成に努めていく所存である。

第2問 大問全体では適切な得点率であったが、『地理総合、地理探究』と比較して「地理総合」での得点率がやや低かった。また外部団体からは、地域を多面的な視点から考察する場面が設定された実際の高等学校における授業等の展開事例に近いものであり、思考力を問う標準的な難易度とやや難易度の高い設問で構成されているとの評価を得た。問1は、地形図や文章など資料が多く受験者にとって負荷がやや大きい点、標準的な問いであり、解答は容易であったと評価された。問2は、資料を丁寧に読み取れば正解でき、資料や会話文の量と複雑さは適度であると評価されたが、資料2に示されたメッシュの濃淡が判読しにくく、表現に工夫が必要だったのではないかと指摘も得た。問3は、聞き取り調査結果の内容、地形の特徴、収穫量の変遷など、多くの資料を読み取らせようという意図が感じられる良問との評価を得た一方で、考慮すべき要素が多岐にわたり、やや難易度が高いとの評価も得た。問4は、資料を総合的に活用し、隣県との関係性を見極められれば解答は容易であり、工夫された問いと評価された。今後も各設問に多角的視点を盛り込みながらも、設問や表現を簡潔・明瞭にするなど、受験者の負担軽減も心がけたい。

第3問 大問全体の平均点はやや高く、小問の正答率は、問1と問2はおおむね標準的であったが、問3と問4が高かった。また外部団体からは、日本の自然環境と防災に関して、地図や資

料から情報を読み取り，日本の地形や気候，防災と人間生活の関わりについての知識を基に，人間と自然環境との相互依存関係などに着目して，多面的・多角的に考察する問題で構成されていると評価を受けた。問１は，日本列島の大地形に関する問題であり，図の読み取りと直下型地震やプレート境界についての知識があれば容易に解答できる問題と評価された。問２は，難易度はやや易しめだが，日本の３都市における月別降水日数のグラフを基に，太平洋側と日本海側の気候の違いや，低緯度で島嶼に位置する地域の気候の特性について考察する良問と評価された。問３は，地すべり地の土地利用とその対策に関する資料を基に，緩傾斜地における土地利用や，地下水位の変化と地すべりとの関係について考察する良問と評価されたが，地理的思考力を問うための一工夫があっても良いとの指摘もあった。問４は，過去に津波被害を受けた地域における現在の地形図を読み取り，地形の特徴から推測される津波による浸水の深さや防災について考察する問題で，やや難易度は易しめとの評価を得た。全体として，良問と判断されたものが多かったが，問１は平易な知識問題との指摘もあった。より思考力を問うバランスの良い出題を検討していきたい。

第４問 大問全体の平均点はやや低く，小問の正答率は，問１と問３はおおむね標準的であったが，問２と問４がやや低かった。また，外部団体からは，世界の生活文化に関して，写真や資料から情報を読み取り，人間と自然環境との相互依存関係や空間的相互依存作用などに着目して，生活文化と自然・社会環境の関わりや，その広がりや変容について多面的・多角的に考察する問題で構成されているとの評価を得た。問１は，高床住居は教科書・資料集でも取り上げられる代表的なものだが，グラフの読み取りは「地理総合」としては難易度がやや高いと評価された。問２は，在日ブラジル人・ベトナム人と両国の在外日本人の居住者数及び日本との交流について問うており，解答するまでに時間を要するが，思考力と判断力が問われた良問と評価された。問３は，旧宗主国との関係や言語などの文化についての知識を問うており，幾つかの国における文化の違いや，その背景を考えさせる良問と評価された。問４は，携帯電話の普及について各国の国家規模や経済水準や経済成長等の地域性を考慮する必要がある，共通テストらしい良問と評価された。全体として，良問と判断されたものが多かったが，出題範囲に偏りがみられたとの指摘を踏まえ，よりバランスの良い出題を検討していきたい。

４ ま と め

今後の問題作成に当たっての留意点として以下に記す。

- (1) 「地理総合」の学習範囲としておおむね適切であり，高等学校での学習を通して身に付けた地理的知識・技能や思考力，判断力などに基づき，統計資料を読み取って考察する良問によって構成されている点が評価された。「場面設定」の問題では，実際の学習過程に沿った場面設定がなされていると評価された。一方，『地理総合，地理探究』との共通問題では，「地理探究」の学習範囲と考えられる発展的な問題とならないように留意する必要がある。また，地球的課題や地域が抱える課題の分野について，探究プロセスをより意識した設問の構成も要請されている。高等学校における学習内容に基づき，地理的知識・技能と思考力，判断力の両面について，各大問及び小問で総合的かつ適切に問えるよう，今後の問題作成でも引き続き検討を続けていきたい。
- (2) 難易度について，平均点は「地理総合」（50点満点）で21.75点であり，「歴史総合」や「公共」と比較すると3～4点程度低かった。難易度は適正であり，易問から難問までバランス良く配置されていると評価された。一方，受験者にとって初見となる資料を用いた問題では，その理解に時間を要することのないように配慮する必要性が指摘された。提示する図表やリード

文のバランスについて引き続き慎重に検討し、適切な難易度を保てるよう十分留意したい。

- (3) 地図・主題図や資料の活用について、全体としては適切と評価された。一方、解答を導く上で提示された資料が必要であるかについても留意する必要がある。また、メッシュの濃淡など、地図や図表の表現方法等にも留意し、今後も適切に問える方法を検討していきたい。
- (4) 全体として、高等学校教科担当教員・教育研究団体等からは学習指導要領の趣旨に沿った問題であると評価された。今後も高等学校の学習で身に付けた地理的知識・技能に基づき、思考力、判断力を養うことを目指した問題作成を継続していきたい。